

岬町

地域に根ざす 岬町の子育て支援センター事業
～豊かな自然の中で、みんなの力で子育てを～

背景

近年、少子化の急速な進行のみならず、核家族化の進行、都市化、女性の社会進出、ライフスタイルの多様化など、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。特に、家庭を取り巻く人たちとのつながりの希薄などが、子育てに負担感や不安感を抱える家庭の増加を招いています。また、岬町では、都会に近く、海があり、山もあり、小川もあり、豊かな自然の中での子育てが注目され、移り住んでこられる方も増えてきました。

「岬町に最近引っ越してきました。子どもを遊ばせたいが、近所に同世代の親子がいないので、いつも一人で遊んでいる。どこか子どもがいる場所を紹介して欲しい。」

「近所や近くの公園で子どもが遊んでいないので、どこか親子が集まっている場所を教えてください。」

このような子育て中の母親の切実な声が聞かれ、保護者がリフレッシュでき、地域の親子が気軽に出入りできる場を提供し、ゆとりを持って子育てができる「場」が求められていました。

そこで、少子化のため休所となっている保育所施設と遊具を活用し、保育士2名により平成18年10月1日、岬町立子育て支援センター「みどりっこ」を開設しました。

支援センター「みどりっこ」は高台の自然に囲まれた団地の中にあり、広々とした環境の中でのびのびと遊べる場所として、子育て家庭の孤立化を防ぎ、相互の交流をとおした子育ての場所として、開設以来、利用者数は年々増えています。

子育て支援センター事業の紹介

・業務時間は月曜日から金曜日 10:00～16:30まで（祝日は休み）

いつでも自由に入出入りできる親子で遊べる場と

して保育室2室と遊戯室を使用し、昼食を取れる部屋1室を設けています。お弁当を食べながら、子どもの偏食・しつけ等についての悩みや育児について話したり、親子の交流の場としても役立っています。

・毎週火・木曜日 10:00～12:30まで（祝日は休み）

地域の子育てネットグループによるつどいの広場「あそぼっと」を実施し、子育てネットグループの持つヨーロッパの木のおもちゃの提供を受けて協働のもと支援活動を進めています。

・毎月1回第4土曜日 10:00～12:00

ファミリー講座を実施し家族一緒にあそべる機会を設け、父親も参加して家族で遊びを楽しんでいます。

・電話・面接での育児相談を受け、育児不安・母親の孤立化等、相談によっては保健センターの保健師や保育所の保育士・看護師と連携をとり、内容によっては専門機関につなぎ、必要に応じて家庭訪問を行い親の気持ちに寄り添うことで育児の支援や援助をしています。中にはサポートによって支援センターに遊びに来られるようになった親子もいます。

・専門講師による講座の実施「ベビーマッサージ」「からだを使って遊ぼう」「おはなし会」の講座、支援センター保育士による遊びの紹介も行っています。

「ベビーマッサージ」は保健センターでの4ヶ月健診時に紹介し、毎回参加者が多い人気の講座で、この講座受講をきっかけに支援センターデビューをされる親子が多くなっています。

・出前保育は保健センターの保健師・栄養士、保育所保育士・看護師と支援センター職員が連携のもとチームを組んで交代で新興住宅地に出向き乳幼児相談や発達相談、あそびの紹介をしています。そのことで「同年代の遊び相手ができてよかった」「専門機関の方に子育ての悩みを聞いてもらってよ

かった」「来る回数を増やして欲しい」等の声が聞かれます。また、支援センター職員は保健センター健診時に出向いて親子遊びの紹介や絵本の紹介等も行っています。

- ・手づくり情報誌を毎月発行するとともに、支援センターの職員が町内の保育所・幼稚園・保健センター・公民館・子育て支援課に出向き、情報交換や収集に努めています。情報誌は岬町ホームページにも掲載し、子育て情報の発信を行っています。
- ・元保育所施設だったということで、たくさん残っている乳幼児向けの図書を活用して絵本・紙芝居の貸し出しをしています。また、毎月新刊も購入しています。

ぴよぴよ教室



ファミリー教室



いろいろな人との出会いの場の提供であると考えられます。地域の方との触れ合う機会として、お花見会・運動会・支援センターまつり、クリスマス会等のイベントを企画し、地域の方々や関係機関と交流をし、子育てのネットワークの輪を広げるように努めています。

最近では、遊びに来ている親子が友達になって自主的に定期的に集まり、広報誌づくりやサークル活動を楽しむようになってきました。開設以来、利用者の何組かの親子が仕事の都合で他府県に転居されたり、お産のため里帰りして産後家に帰った親子が、「また遊びに行きたい」「みんなに会いたい」、と言って再度遊びに来られた家族も何組かおられます。

おはなし会



からだをつかって遊ぼう



支援センターの事業効果

支援センター「みどりっこ」では親子で遊べる場、仲間をつくる場、ほっとする場を提供しています。

育児の心配事を気軽に支援センタースタッフや子育てネットのスタッフにその場で相談するような雰囲気づくりに努め、専門機関にもつないでいます。

さらに、毎月第4土曜日にはファミリー講座として家族で遊べる「場」の提供や、お父さんが子育てを学ぶ「パパのための講座」も年1回開催しています。2ヶ月に1度は地域のお年寄りの方々も参加しやすいイベントを企画し（お花見会・支援センターまつり・運動会・クリスマス会）親子との交流だけでなく、地域全体で子どもとの触れ合い遊びを楽しんでいます。

また、毎月2回第2・4火曜日に10:00～12:00まで地域のボランティアとして元エンジニアだった方が壊れたおもちゃの修理を無料でしてくださっています。おもちゃが直って子どもたちの笑顔を見るのが一番嬉しいとおっしゃって来てくださっています。

核家族化は、母子密着型の子育てとなっているといわれます。母親や子どもに必要なのは「子育て」や「遊び」を一緒に共有できる仲間や援助者であり、

ベビーマッサージ



ぴよぴよ教室



今後の展開と課題

このように、少しずつではありますが、地域の子育て支援の拠点として活動できるようになってきました。

今後は、豊かな自然の中で子育てをしたいと、子育て世代が都市部から岬町に移り住まれている中で、子育ては子育て中の親だけでなく、行政・専門機関・住民が連携したネットワークのもと、子育て世代の孤立化を防ぎ、地域全体で「子育て」を支援する具体的なプログラムの展開が重要です。

また、支援センターの役割として、地域の人と人をつなぎ、関係機関との連携によるネットワークや子育て支援団体との協働のもと、利用者の自主的なサークル活動を後方支援するなど、職員一同、利用者の生活スタイルに合わせ、いつでも気軽に利用できる施設として、設備・環境・対応の充実に努める必要があります。